

46

占領期の日本における GHQ/SCAP/PHW の 組織と職員の変遷に関する考察

杉田 聡¹⁾, 田中 誠二²⁾, 丸井 英二³⁾

¹⁾大分大学医学部, ²⁾新潟大学人文社会・教育科学系, ³⁾順天堂大学医学部公衆衛生学教室

【研究の背景】

発表者らはこれまで、第二次大戦後の占領期の保健医療福祉改革に、連合国最高司令官総司令部公衆衛生福祉局（以下 PHW）が大きく関わっていたこと、及び、その時期の記録は日本国内にはあまり保存されていないこと、米国に持ち帰られた GHQ/SCAP の行政文書には PHW に関わる文書がマイクロフィッシュ 5,556 枚（A4 換算で約 50 万枚）と膨大な量に達すること、について明らかにしてきた。研究のプロセスとしては、PHW 文書中の

〔第 1 段階〕 Weekly Bulletin（週刊広報）の復刻・電子ファイル化 ← 完了

（Web 上で公開済み <http://www.rekishow.org/GHQ-PHW/>）

〔第 2 段階〕 Communicable Disease Report（伝染病統計）、Venereal Disease Report

（性病統計）（注：日本語訳は当時の用語）の年月別統計の電子ファイル化 ← 完了

〔第 3 段階〕 PHW の活動を記録した Daily Journal（業務日誌）のうち、Memorandum for

Record（記録用覚書：以下 Memo）表題一覧を復刻・電子ファイル化 ← 完了

〔第 4 段階〕 Memo の内容（例：Preventive Medicine 等）別に分類・集計 ← 作業中

〔第 5 段階〕 上記 4. を用いて、報告者・所属課別の分類・集計 ← 作業中

〔第 6 段階〕 上記の電子ファイル化した文書の相互ハイパーリンク化 ← 予定

〔その他〕 上記の 1～5 と共に種々の事項（マラリア、学校給食、等）の質的分析 ← 発表・投稿中

【目的】

今回の発表では、上記のうち第 4 段階の一部を用いて Preventive Medicine に関する部局とその活動の中心となった職員の変遷について明らかにすることを目的とする。

【結果】

1945 年に Preventive Medicine は、単一の Division として存在したが、1946、47 年には、Preventive Medicine 課に加え、種々の顧問（Consultant）へ分岐する。それらは、Port Quarantine Consultant, Venereal Disease Control Consultant, Laboratory Consultant, Typhus Consultant, Nutrition Consultant 等となっている。1948 年以降は再び Preventive Medicine Division に集約され、Nutrition Consultant は Nutrition Branch へと移管される。

Preventive Medicine Division における年別主要報告者（各年別 Memo 数の 1/4 以上）は、1945 年：Wilson C. Williams, 1946 年：Warren R. Bradlee, Philip Bourland, 1947 年：Lucius G. Thomas, 1948 年：Lucius G. Thomas, Ira D. Hirschy, 1949 年：Lucius G. Thomas, 1950 年：Melville D. Dickenson, 1951 年：S. R. Bozeman, であった。発表においては、これらの分析を他の Division（Medical Supply Division 等）についても分析結果を明らかにする予定である。

本研究は、日本学術振興会科学研究費・基盤研究 (C)「占領期の保健医療政策に関する考察 GHQ 文書内の相互リンク化による検証」(研究代表者：杉田聡)、基盤研究 (A)「近現代日本における医療の構造変化と歴史の重層」(研究代表者：鈴木晃仁、研究分担者：杉田聡)の助成による成果の一部である。